

社会福祉法人A J U自立の家
2024年度（第35期）
事業報告



Social welfare corporation.
A.J.U Center for Independent Living.

目 次

<u>1</u>	<u>2024年度（令和6年度）を振り返って</u>	<u>28</u>	<u>2024年度（令和6年度）決算概要</u>
<u>3</u>	<u>福祉ホーム・サマリアハウス</u>	<u>29</u>	<u>2024年度決算・法人全体</u>
<u>5</u>	<u>デイセンター・サマリアハウス</u>	<u>30</u>	<u>2024年度決算・各事業ごとの予算</u>
<u>7</u>	<u>自立生活体験室</u>		
<u>8</u>	<u>障害者ヘルパーステーション・マイライフ</u>		
<u>10</u>	<u>障害者ヘルパーステーション・マイライフ西</u>		
<u>12</u>	<u>自立生活情報センター・サポートJ（講師派遣事業）</u>		
<u>14</u>	<u>昭和区障害者基幹相談支援センター</u>		
<u>15</u>	<u>相談支援事業所サマリアハウス</u>		
<u>16</u>	<u>わだちコンピュータハウス</u>		
<u>18</u>	<u>ピア名古屋</u>		
<u>22</u>	<u>小牧ワイナリー（ななつぼし葡萄酒工房・ピア小牧）</u>		
<u>24</u>	<u>AJUリカバリーセンター・フェロー</u>		
<u>25</u>	<u>マイプラン・ケアマネジメントセンター</u>		
<u>26</u>	<u>社会啓発・社会貢献事業室</u>		

2024年度（令和6年度）を振り返って

2024年度において、事業運営はたいへん厳しいものとなりました。その中でも、最も顕著だったのは物価高騰と人材不足の影響です。世界的なエネルギー価格の上昇や物流費の増加、原材料費の高騰など、ありとあらゆるものが、コストを大きく押し上げました。

その対策としてコスト管理の徹底と情報共有アプリ、AIソフトの導入を非営利法人プランにより無償で提供を受けて試行する等、ICTを活用し、各部署の業務の効率化を図る取り組みを進めています。

また、人材確保においては、就職求人サイトや就職フェア、ホームページSNS等を幅広く活用して取り組んできました。

AJU自立の家のホームページもリニューアル作業を進め、採用情報を見やすくしたことで新規採用、次年度以降を含めてインターシップや、就職に関する興味をもつ就活生と繋がることが出来ました。あわせて学生さんと障害当事者、若手スタッフとで交流イベントを開催し、登録ヘルパーの登録や講座の受講、ボランティア活動へ繋がるような広報活動も積極的におこなうことができました。それは若手当事者、若手スタッフの頑張りです。そして、福祉ホームサマリアハウスでは、地域での自立した生活を目指す若い障害者が自立生活体験室を経て入居しました。今後の成長を支えていけるようにしっかり取り組んでいきます。

財政面では、法人全体の資金収支計算書ベースで事業収入は、1,435百万円、事業支出は1,433百万円、収支差額は、2百万円の黒字となり、前年度から42百万円改善しました。

主な要因は、小牧ワイナリーの事業活動収支差額が対前年度比63.2%改善、同様にリカバリーセンターフェローが対前年度比16.7%増と改善しました。それに対して、障害者ヘルパーステーション・マイライフの派遣時間は6%減、収入2.5%減となり、ヘルパー派遣事業の時間数減少の原因を究明、理解し、早急な対策が必要な結果となりました。また、デイセンター・サマリアハウスも9.5%の減収となっており、国の報酬単価改定と報酬算定方法の変更による影響が大きく響いています。

なお減価償却費等を含めた事業活動計算書（損益計算書）では、事業収入は、1,442百万円、事業支出は、1,484百万円、収支差額は、42百万円の赤字でした。

徹底的に経費のムダを省くこと、収入の向上の両面を求め、各部署職員ひとり一人がその意識を持つことを求めています。

常務理事 辻 直哉

2024年度（令和6年度）各部署の事業報告

福祉ホーム・サマリアハウス

一年の総括

今年度、入居者や卒業生とのコミュニケーションを強化し、イベントを充実させる取り組みをおこないました。昨年度から継続して、施設の運営や改修に関する課題にも取り組みながら、より良い福祉サービスの提供を目指しました。

年度目標に対する結果

①体験室事業からのホーム入居者を目標人数5名を設定します。

体験室事業からホーム入居者の目標を5名に設定し達成することが出来ませんでした。名古屋市内1名、愛知県内3名の入居がありました。

②継続したイベントの実施をすすめていきます。

今まで無くなっていた、ホームの日帰り旅行を実行しました。ホーム入居者と計画段階から考え無事イベントを実現することが出来ました。

③当事者として伝えられることを一つから見つけられるようサポートします。

車いすセンターと協力し合いながら、「たまり場」の開催を行いました。制度勉強や日常の悩みを話合える場になるよう継続していきます。

④二次障害・高齢障害者の受け入れ場所等の提案ができるよう検討していきます。

数年前に福祉ホームを卒業した男性が生活リズムを立て直したいと希望があり受け入れました。

沖縄在住の方から名古屋市への移住希望がありました。体験室の利用が複数回見込めないこともあり4年間の入居ではなく、次の新居が見つかるまでの4カ月間の期限付きで受け入れました。

年度末退居者

氏名	年齢	区分	生活状況等	入居期間
Yさん	53	6	名古屋市内のアパートに転居。	4年5カ月
Hさん	25	6	名古屋市内のアパートに転居。	5年
Sさん	45	4	岩手県の市営アパートに転居。	4年
Nさん	66	6	名古屋市内のアパートに転居。	2年4カ月

福祉ホーム・サマリアハウス

年度末時点 入居者

氏名	年齢	区分	生活状況等	入居期間
Uさん	24	6	デイセンターに通所。	1年
Mさん	30	3	就労支援B型に通所。	1年11カ月
Kさん	56	3	デイセンターに通所。介護保険利用者。	4年
Nさん	32	5	デイセンター通所。CILなどのイベント参加。	2年3カ月
Oさん	29	6	デイセンター通所。	7カ月
Oさん	37	6	24時間の重度訪問を使いながら生活中。	2年4カ月
Yさん	23	6	デイセンターに通所。CILなどのイベント参加。	5カ月
Kさん	24	6	デイセンターに通所。	1年10カ月
Hさん	32	6	デイセンターに通所。	3カ月
Sさん	42	5	施設からサマリアへの入居。	2カ月

デイセンター・サマリアハウス

一年の総括

地域生活を継続するにあたり、課題解決のための社会資源、人とつなげつつ、希望の多い外出ニーズにそって楽しく過ごす機会を多く創出できました。

一方で2次障害、高齢化により身体状況の変化のある方も増加し、健康維持のフォローと介助方法の見直し等の取り組みが必要となってきました。

年度目標に 対する結果

1. 障害の多様化に対し、関係各所と情報共有・連携しながら、個々の特性に応じた支援
 - ① 本人やスタッフ、関係各所と情報交換する場を定期的にもつ
 - ・ デイメンバーの担当支援ミーティングや会議において、情報共有を行い地域で生活をしていくうえでの課題を整理し、デイメンバーへもフィードバックできました。
 - ② 共有された課題を関係各所と連携、調整して一緒に支援する
 - ・ 健康課題に対し、医師へ伝える内容をデイメンバーと整理し、通院同行の調整、依頼、対応結果の共有と支援方針の統一を行いました。
 - ・ 福祉用具のニーズに対し、道具の詳細や実物確認、給付制度の確認などを一緒に調べ、ピア名古屋やなごや福祉用具プラザなどの関係機関と連携、調整し電動ユニット付け替え、電動車いすや紙おむつの給付申請等対応しました。
2. 安心安全に過ごせる居場所づくり、魅力を感じられる場所づくりを創造
 - ① 相談できる場として、デイメンバーが心身共に安定できるよう常に声かけ、寄り添いをする
 - ・ 希望に沿って定期的に外出をして、外出先で相談対応する機会を設けることにより、フランクに話ができ良いとの意見がありました。
 - ③ 地域のイベント情報をネット、生涯学習センターや観光案内所などでデイメンバーと収集します。
 - ・ 外出した折に、適宜、観光案内所、生涯学習センターに立ち寄り、イベント情報を収集し次の企画につなげました
 - ④ デイメンバーのやりたい企画を年間120件実施します。
 - ・ 日々の会話の中から楽しいこと、興味ある事、得意なことを引き出し、企画へつなげ年間120件以上達成しました

デイセンター・サマリアハウス

3. 法人内関係事業所、サマリア内部で連携、協働で人材発掘支援育成体制を構築

① 法人やサマリア3事業の魅力・特色をデイメンバーと共に実習生や各種学校を訪問し伝える

- ・ 実習生に対しサマリアハウス内を案内・紹介する役割を担いました。
- ・ 各種学校や実習生などへサマリア3事業の話を伝えるためにデイメンバーと資料を一緒に作成しました。
- ・ 事業内容アピール広報を強化するためSNSをたちあげ、サマリアを利用するメンバーとともに撮影編集をすすめました。

② 実習生対応や各種学校、施設訪問をして支援者獲得や障害当事者の仲間のディ参加を促す

- ・ 高校や大学へ行き、ヘルパー、イベントボランティア募集とともに、障害当事者仲間を募るために 各種施設に訪問しました。

4. 地域共生社会の実現に向けた啓発活動を、サマリアハウス一丸となって取り組み

① 地域の団体（区社協、ボランティア連絡会、大学など）イベントに参加

- ・ 御器所学区の催し、社協主催のサロン、ボランティア連絡会の交流会などに参加し、地域の方と交流しました。

② 障害当事者に対する差別の解消に資する企画（ミニマルシェ、つなぐ食堂）を提案・実施

- ・ 「誰にとっても生きやすい社会を楽しくつくろう」をコンセプトに地域交流サロン「わいわいサマリア」を年3回開催。
- ・ Eスポーツ、ボッチャ、スタンプラリー、駄菓子販売などを通じて、学生ボランティア、地域の方達と交流ができました。

5. デイメンバーもスタッフも共にスキルアップできる取組を実施

① なごや福祉用具プラザ、社会福祉協議会、生涯学習センターなどで開催される講座に参加します。

- ・ 自立支援協議会の防災部会、「心のコントロール」の講座受講、当事者部会での交通局との話あいに参加し、学びを深めました。
- ・ 生涯学習センター開催のEスポーツイベントに申し込み、地域の方とゲームをプレイし楽しみ、かつ、新たなゲーム補助具を知ることができました
- ・ なごや福祉用具プラザの福祉用具展示会に参加し、移乗道具などスタッフ、デイメンバーともに試し道具を使っの移乗方法を学びました。

② 障害者団体の活動内容を一緒に調べ、講演イベントなどに参加

- ・ JIL、ADF、DPI、重度障害者の生活をよくする会などの学習会、講演会イベントに参加しエンパワメントしました。

自立生活体験室

一年の総括

今年度も、三障害幅広くニーズがあり、多様な障害当事者を支援することができました。そのなかで、人材育成にも取り組み、多様な障害の特性等を知るための研修を行う等、新たな学びを実践に役立てる機会を作りました。また、出前講座で施設を訪問する機会が増えたことから、ご本人と対面でコミュニケーションを図る場面を多く作ることができました。そして、法人内他部署、相談支援事業所等との連携により、希望者に対し福祉ホームの入居に繋げる動きをすることができました。

年度目標に 対する結果

①施設・親元等からの自立生活を実現するための第一歩となる体験の場を提供します。

- ・愛知県地域生活体験モデル事業で延べ14名、名古屋市身体障害者自立生活体験事業1名、短期入所事業で延べ9名の方の利用がありました。特に知的障害者の方が利用される機会が増えました。
- ・利用日数に関しては延べ156日となり、今年度は利用経験者2名が福祉ホームへ入居されました。来年度はすでに2名の入居が決定しており、その他2名から3名の方が入居予定とされています。また、他部署とも連携し、他部署のスタッフが、利用中から積極的に関わりを持つ機会を作っています。
- ・サマリアハウスイ体となり地域交流イベントを行い、ボランティア募集を行うことや、ぼらマッチ等外部でのイベントにての広報、授業アピールの場や実習生への周知等を積極的に行いました。

②関係機関への訪問による本事業の必要性と重要性を伝え、連携を強化します。

- ・四季自立プログラムを夏、冬、春と3回開催し、延べ6名の高校生が参加しました。また、サポーター延べ23名、当事者スタッフ延べ12名、他部署スタッフ延べ5名が携わり、無事に「自ら考え、計画し、チャレンジする」場を提供することができました。
- ・名古屋市内22か所の基幹相談支援センター、特別支援学校8か所、入所施設5カ所を訪問し、事業の案内、参加希望者への周知等を依頼しました。メールや電話での後追いも行いました。また、特別支援学校から出前講座の依頼があり、高校生15名と先生が参加しました。
- ・自立支援協議会、入所施設及び生活介護事業所、特別支援学校等11カ所で出前講座を行い、計151名の参加者がありました。
- ・遠方の利用者との面談及び相談や、施設入所者との1回/月の面談をZOOMにて継続的に行いました。

③次世代移行プロジェクトのテーマ「人を育む」を実現するため、課題を整理し解決するために取り組みます。

- ・スキルアップ研修として、「知的障害のある人への関わり方」、「他事業所の自立生活体験室を学ぶ」の2回を実行しました。知的障害者の意思決定支援の難しさや、精神障害者への関わり方を知ることができ、学びの機会となりました。
- ・利用経験者の方に、出前講座で講話者として参加したり、利用者に対し利用期間中での関わりを持ったりしていただくよう、依頼・実行しました。

障害者ヘルパーステーション・マイライフ

一年の総括

体験室の利用など数年かけて関わって来た方が福祉ホーム入居に至り、念願であった地域での生活が始まりました。また、地域で長年生活されてきた方が疾病により逝去されました。

これから地域生活が始まる方と長く地域生活をされてきた方が高齢化するという二極性が傾向として現れましたが、どちらも人材不足により他事業所との連携が必要な状況になりました。

年間派遣時間数は昨年度に比べ約6%減少しました。

吸引等が必要になる利用者が増えることを想定し、喀痰吸引等三号研修の講座を実施しました。

年度目標に 対する結果

①施設や親元から地域生活を目指す障害者を支援する。

- ・ 体験室利用者の介助方法の検討・介助者手配 男性：8名、女性：5名
- ・ 体験室利用後の福祉ホーム入居者 男性：2名、女性：1名
- ・ 福祉ホーム退居者の地域生活への移行支援 男性：2名

②長期に渡り支援してきた重度及び高齢な障害者との会話の機会を増やし、地域での生活を継続できるよう支援する。

- ・ 重度化、高齢化、疾病により体調を崩される方が多くなる傾向の中、他部署や近隣地域の事業所などとの連携が不可欠な状況でした。本人の意向を明確に受け止められない場合でも、できる限り意思に沿えるよう情報の共有に努めながら支援しました。
- ・ 9月に逝去された方が外出が好きだったことから、マイライフ西と協力し日帰り旅行を実施しました。
- ・ 体調不良で入院され、口腔内からの摂取が難しくなった方が、在宅での医療的ケアが必要になりました。当初マイライフでは対応できませんでしたが、職員と登録ヘルパーが研修を受講することで在宅生活が継続できるよう準備しました。
- ・ 3月に利用者懇談会を開催しました。テーマは「生活費と節約術」として参加者は9名でした。年3回開催する予定でしたが準備不足により1回の開催となりました。
- ・ 利用者ミーティングを開催しました。参加された登録ヘルパーへ利用者から伝えたいことを話してもらう等、意見交換の場となりました。

障害者ヘルパーステーション・マイライフ

③コミュニケーションの場を増やし、障害者の生活を支える為の人材を確保する。

- ・授業アピールを年43回実施。連絡先を記載してもらえた学生は102名いました。内18名が重訪講座を受講し、前年度よりも5名多く繋がりました。
- ・新規登録ヘルパーは男性：26名、女性：33名の合計：59名となり前年度より13名増えました。
- ・イベントは、ボッチャやBBQ、eスポーツ含め5回実施しました。イベント後の交流会ではヘルパー登録へ繋がるようアプローチを行いました。就職求人サイトを活用し、就職フェアへの出展やSNS等の活用を進めました。学生の就職活動が変化する中、実態とズレが生じないようにするためインターンや仕事体験、職場見学など、様々な形式でアピールしました。その結果、新卒採用として2名（中途含めると4名）の職員を迎える事が出来ました。
- ・マイライフ、マイライフ西、サマリアハウスの管理者で外国人人材の雇用方法をセミナーの参加を含めて情報を共有し勉強会を設けました。留学生のアルバイト希望者には事前に面談を行い、業務への心構えや金銭の扱い等を伝え、ミスマッチがないように取り組みました。

④職員の活躍する姿が見えるよう体制と環境を整える。

- ・これから地域生活を始める方への「地域移行」と障害の重度化、高齢化しても変わらず地域で自分らしく生活をする「地域継続」の2グループに分けて支援を始めましたが、使命の共有がしっかりと出来ず、フォローが行き届かなかったことが課題になりました。
- ・障害当事者としての長所が活かすため、非常勤の当事者スタッフ3名を雇用し、広報活動や講師等を担える人材を増やしました。
- ・TAL面談を通じて個々の業務向上を図るとともに、スタッフ間のコミュニケーションの活性化へと繋げることができました。

派遣時間の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度	13,449	14,089	14,185	14,270	13,610	14,015	14,576	139,100	14,339	13,973	13,630	14,410	168,455
令和6年度	12,981	13,341	13,556	13,774	13,510	13,465	13,836	13,503	13,358	12,379	11,733	13,114	158,548
前年度対比	-468	-718	-632	-491	-98	-550	-740	-407	-981	-1,594	-1,897	-1,296	-9,907

ヘルパー養成事業

1. 新型コロナウイルス感染対策及び法令を順守し、安心安全な重度訪問介護従業者養成研修を実施
 - ・講座開講日の受講生の体調に留意し、密を避け、検温・消毒・換気の徹底等感染対策を講じて、年間計画沿った講座の実施を行いました。
2. 重度訪問講座は120人を養成目標に対し、延べ12回開講し、77名養成しました。
3. 喀痰吸引等第三号研修の定期的な実施及びホームヘルパー現任研修を開催、喀痰吸引等第三号研修を3回実施し、15名養成しました。ホームヘルパー現任研修(名古屋市委託) 開催

障害者ヘルパーステーション・マイライフ西

年度目標に 対する結果

1. 個々にあった支援体制を整える為、加齢、障害の重度化、生活の変化によるニーズの変化を本人と共に考える。

年間派遣時間計:72,759.5時間 (2023年度:73,167時間に比べて-407.5時間でした)

- ・ 施設に40年以上入所している方の地域移行をサマリア、マイライフと連携し支援し、R7.2月1日に福祉ホームへ入居、ヘルパー体制を整え派遣。
- ・ 障害特性や障害の進行、加齢により生活のしづらさのある利用者7名へ月1回以上の面談を実施。ヘルパーを利用しながら自立生活を継続するための寄り添いを実施した。利用者本人と共に課題解決へ向け歩みを進めることが出来ている。
- ・ サマリアハウス、フェロー、マイライフ、小牧ワイナリーと情報共有アプリにて連携し、利用者の支援、広報活動、システム入れ替えなど多岐にわたりコミュニケーションの向上が出来た。
- ・ 職員3名(男2女1)嘱託職員2名(女2)採用。派遣の安定に務めた。新規採用者へは月1回の面談実施し育成及びサポートを実施した。

2. 人材確保と、起点となる拠点づくり

- ・ 授業アピール25回、チラシ配り13回、イベント11回実施。学生登録ヘルパー獲得につながる取り組みを実施し新規登録確保の足掛かりとした。
- ・ 利用者と留学生ヘルパーの交流会を1回実施。外国人の雇用に向けた勉強会3回実施。相互理解を深めることが出来た。
- ・ 新規登録者:29名(内留学生7名)
- ・ サマリア、マイライフとリストを共有し22名の候補者へアプローチ。R7年度へ職員4名と嘱託3名の雇用へ繋がった。
- ・ 移転先について内装工事完了。3/19に引っ越しを実施し、4/1より事業開始予定。
- ・ 情報共有アプリの活用をマイライフにも広げ、効率的な情報共有を実行した。併せて、ヘルパー派遣事業にかかる管理ソフトと請求ソフトの入れ替えは、業務効率化を進める中で5社以上よりプレゼンを受け、それぞれ契約に向け絞り込むことが出来た。

3. イベント参加と新規事業の開設

- ・ 生活塾総会並びに記念行事への協力を実施。取組を通じ改めて障害者支援における障害当事者との役割分担を確認した。13回の生活塾の取組みに参加。他団体との交流を図るとともに、障害当事者の「楽しみ」を共に実行した。
- ・ 生活塾との合同MTを14回実施。障害当事者のやりたいことの表出、新規事業の取組内容と、事務所内装のレイアウト等の検討を重ねた。新規事業については骨組みを作り行政にも問い合わせながら進めたが、実施には至らなかった。

障害者ヘルパーステーション・マイライフ西

4. AJU自立の家らしさの継承とTALを活用した人材育成

- 外部研修について、名古屋市社協開催研修受講：延べ15名、18回。内容について、slack・資料等活用し部署内へアウトプットを進めた。
- 内部研修について、MTの時間を活用し10回実施（人集め、当事者性の理解、BCP研修等）
- TAL（※）を活用し新人職員含め延べ50回以上の面談実施。年数、役職に応じた業務の付与を行い、意識の醸成を図ることが出来た。
- 役割、責任の可視化を実施。次世代を見越した人材育成を実行した。
- スラックにおける。コミュニケーション回数の見える化を実施。月平均1,607回の発言があり情報共有を継続的に実施した。

※TALとは、Teach And Learningの略称で「先輩や上長との面談により年間の研修や目標を定め」人材育成する取り組みのこと

自立生活情報センター・サポートJ（講師派遣事業）

一年の総括

今年度はR7年5月の西区での「サロン開設」。小・中学校等の福祉実践教室講師1名の一人立ち。地活の先輩当事者とデイ・地活含めての若手当事者3名との「定期交流・勉強会など」お出かけ企画など含めた「集い・相談・学び」の数年の地道な動きが具体的なかたちとしての成果がみえた。

年度目標に 対する結果

- ① 新たな当事者の仲間を増やし、当事者同士の「集い・相談・学び」の体制を一步步進めます。
 - ・ 当事者職員を核にデイ当事者も含めて懇談・個別勉強会・IL(向き合い)などを毎月数回開催。
 - ・ 本人の体調不調含めて1年近くを要したが利用者地元西区の「サロン立ち上げ」が、地域の自治会長の理解や西区社協とも連携し、R7年5月開設の目途に至った。
 - ・ 「お出かけ企画」は計6回当事者延べ12名が参加。これらの交流で切磋琢磨やサロンの協力など「仲間のつながり」も深まった。
- ② 社協やその他の社会資源（他の地活や子ども食堂、地域サロン）との地域交流を進めて活きます。
 - ・ 北名古屋市社協の福祉実践教室には新たに「型破りな講師」投入も含めて、当事者の多様性などの理解が進んだ。
 - ・ 「駄菓子屋」見学で職員含めて、地域交流の重要情報とコネクションも築けた。
 - ・ 桜山中学校のキャリアナビゲーターとサマリアハウスで懇談。AJUの理念などへのご理解を得た。
 - ・ 南区社協とも福祉実践教室で「新たな講師」も含めて交流・理解が進んだ。
- ③ 「当事者講師」は現状の「人材不足」をしっかりと認識した上で一人一人を確実に育んでいく。
 - ・ 23歳新人講師は、これまでのトラウマから自分に自信がなかなか持てなかったが1年近くの週2回の勉強会などで福祉実践教室の「一人立ち」に至った。
 - ・ その他3名も定期的な勉強会や外部見学などでそれぞれが成長を果たした。

自立生活情報センター・サポートJ（講師派遣事業）

講師派遣回数と 勉強会数

	講師派遣数	勉強会	受講者数		講師派遣数	勉強会	受講者数
4月	2	3	35	10月	8	7	18
5月	0	4	9	11月	13	6	95
6月	25	5	110	12月	7	6	24
7月	15	7	74	1月	2	6	46
8月	0	6	10	2月	3	6	20
9月	14	6	73	3月	3	4	15
計	56	31	311	計	36	35	218

昭和区障害者基幹相談支援センター

年度目標に 対する結果

1. 地域資源への意識を上げ、つながるために個々職員の自覚と意識の向上をはかる
 - ・ 毎月新規事業所を確認し、新規事業所が出来た際は訪問を実施、挨拶とともに協議会への参加を依頼しました。その月に訪問出来なかった際は次月に訪問しております。今年度は区内の新規事業所6カ所を訪問。
 - ・ 昭和区自立支援連絡協議会総会の出欠確認や事業所ガイドブック配布、認定調査などと併せて区内事業所を訪問しました。直接訪問し、話をする事で事業所との関係を深めるよう努めました。
 - ・ 協議会開催の案内、研修会・イベントなどの開催案内、事業所空き情報などメーリングリストを活用して情報の発信を行いました。また、今年度はメーリングリスト登録者の確認を行いました。

2. 私たちの存在を伝えるためにSNSでの情報発信を継続して行える仕組みをつくる。
 - ・ SNS担当チームを編成し、インスタグラムでの情報発信を行いました。担当者の休職に伴い発信の頻度は下がったものの、イベントの案内や事業所の情報などの発信を随時行いました。フォロワー数も1000人を超えました。
 - ・ 八事の森春まつりや桜山商店街夏まつりなどの地域イベントへの参加の他、地域で開催されたイベントに足を運び地域や事業所との関係づくり及び基幹相談支援センターの周知に努めました。
 - ・ 「親しみを持っていただくためにマスコットキャラクターをつくる」目標は、アイディアを出す事が出来ず達成できませんでした。

3. 全職員がレベルアップをするために自発性・積極性を身につける。
 - ・ 計画相談の年間利用者数は62名でした。女性相談員の休職や異動に伴い、新規契約者数を計画通りに進められなかった事や男性相談員では対応困難なケースを他事業所に依頼した事により目標数を達成する事が出来ませんでした。
 - ・ 個々の職員が自身で研修の選定し受講してきましたが、全員が年間6回の研修を受講する事は出来ませんでした。
 - ・ 受講した研修内容は資料の回覧やミーティングでの報告によって共有する事が出来ました。
 - ・ 来所や電話での初期対応については、経験の浅い職員が積極的に行い、必要に応じてフォローを行ってきました。利用者との面談においても熟練者が同席をし、相談員のフォローが出来るよう対応しました。

相談支援事業所サマリアハウス

年度目標に 対する結果

1. 利用者一人ひとり、その人らしい計画づくりをする
 - ・ 計画更新・モニタリング期間以外での聞き取り：117件実施。加算の積み上げも意識し、利用者一人ひとりの状況に合わせて関わることができました。
 - ・ 緊急連絡先の聞き取り：19件実施。災害時の対応について8月南海トラフ地震臨時情報をきっかけに所内で検討をし、12月に利用者一人ひとりに対して災害時の聞き取りを行うことを決めました。聞き取りは来年度も継続していきます。
 - ・ 精神の方の中にはサービス利用以前の課題を抱える方も多く、多職種とも連絡を取り合いながらアセスメントを実施。産後間もない女性の事業申請にあたり、産後の不安感を傾聴。育児を温かく支えていただけるよう事業所を選定、顔合わせに臨み、安心してサービス利用いただく基盤を作りました。
2. 主体性重視を意識し、関係機関と連携し生活を支えます
 - ・ 医療的ケアが必要な方が、がんの転移により体調が悪化してきたため、ご本人とご家族を含め関係機関が参加する担当者会議を開催し、全体で情報共有と支援の方向性を決めた、不参加の事業所にも周知し、全員が足並みを揃えて支援ができるように共通認識を持ち、現場対応の役割分担を行いました。
 - ・ 夜間になると精神不安定から様々な身体症状が出てしまい、救急要請が頻回になっていることから、ご本人を入れての担当者会議開催・通院同行・電話回数を増やす等の対応をしました。
3. 相談員各自がスキルアップを意識し、学習や研修の機会を積極的に持ちます
 - ・ 中央療育センター見学会や弁護士による事業所運営上における法律関連の講義へ参加。相談部会の開催月には概ね参加することができました。
 - ・ 研修参加：16件。虐待防止・発達障害・強度行動障害・精神障害・精神科の薬・防災セミナー・障害児・高次脳機能障害・依存症・身体拘束等の研修へ参加しました。

新規問合せ40件、新規契約19件、解約18件、契約者数164件。

新規受け入れ目標には1件、契約者数も16件目標達成には至りませんでした。

主な要因としては、解約者数の増です。解約理由としては、転居に伴った相談員交代や福祉サービス自体の利用中止が理由での解約が多くありました。

わだちコンピュータハウス

年度目標に 対する結果

1. 受注見込みの業務を確実に受注し、受注可能な入札案件を積極的に取りに行く
 - ・生産活動の売上高が91,512,793円に達し、70,000千円の売り上げ目標は達成できた。さらに、生産活動費用は6千5百万円ほどに抑えることができ、20,000千円以上の利益を生み出すことができた。
 - ・名古屋市や東員町、中部国際空港や愛知国際アリーナといった、過去につながりのある取引先の受注はうまくいった。
 - ・郵便費用の高騰等により、指名競争入札で落札できたケースは少ない。とはいえ、入札が不調になるケースも多く、入札のありようについて提案していく必要を感じた。
2. 新規業務案件を柔軟に受託体制を整えて可能な限り受託
 - ・過去につながりのある取引先からの新規業務に加え、名古屋市強度行動障害など、新規の取引先からの業務を受けることもできた。
 - ・現状、仕事を請ける段階で担当者が事前に決まっているため、そこに新人を含む他の所員が関わる事が出来るようにすることが課題。
3. 業務の作業を細分化し、効率よくかつスピーディーな作業体制の構築を図る
 - ・テープ起こしのために、文字起こしAIソフト「Automemo」を導入することができた。
 - ・リフトカーチーム、集計チームなど、一部のチームで業務マニュアルを作成することができた。
4. 業務内容に応じて適材適所に人員配置
 - ・新入所員について、いくつかの仕事を担ってもらい、どの業務が適任かを見極めたうえで配置することができた。
 - ・知識・経験のある所員を新入所員のトレーナーとして配置する「新人マネージャー」になる仕組みについて、パイロットチームを立ち上げて実行することができた。
5. 『10年後のわだちのあり方検討会』を立ち上げ、施設運営の方向性を検討
 - ・7月から本格始動し、月一回行うことができた。3月までに10年後に向けた基本目標を定めるところまで完成した。
6. 働く意欲のある新規所員3名の入所を目指す
 - ・5名の利用者が新規入所し37名と契約している。ただし、コロナ禍前と比べて、一人当たりの通所回数は少なくなっている。
 - ・障害福祉サービス等事業収入が77,686,729円となり、対前年度比6百5十万円伸ばすことができた。
 - ・UD業務にボランティアでかかわっている28歳頸損の男性について、入所に向けた話を進めている。

わだちコンピュータハウス

7. 既存の顧客とのパイプを太くするため、営業活動を強化

- 行政機関を中心に営業を行うことができ、併せて、中部国際空港のUD懇親会で小牧ワイナリーのワインや後援会についての営業を行うこともできた。

8. 試験的な新規業務を1つ以上実施

スキャン業務、スマホ相談等、新規事業にチャレンジしたが、うまく軌道に乗せることはできなかった。

9. スタッフによる所員一人ひとりとの面談を年1回以上行う

- 傷病や長欠といった大きなことが発生した所員について、面談をおこない必要なフォローに取り組んだ。
- コロナ禍が過ぎて初めて、飲食を含めた懇親会を3回行い、その中で、スタッフと所員が交流を持つことができた。

10. 体調、生活に変化のある所員に対して多角的にサポートを行います

- 救急搬送時の同行など、利用者に困りごとがした際の対応をおこなった。

11. 「MIRAIプロジェクト」が主体的な活動ができるようサポートする

- 月に2～3回、定期的に活動できている。
- USJ事業部、IT事業部の各MTで定期的に活動報告を行うことができた。

12. 知見を広めるため、外部研修やセミナー等への参加を促進します

- 障害者ピアサポート研修やJILの研修、DPIの研修等に参加できた。
- その他、必要に応じてオンデマンド講座などで研修資することができた。

ピア名古屋

年度目標に 対する結果

1. 「働く」に対する仲間の意欲を高める

- ① 仲間全員がひと月一回以上の個人面談やミーティングに参加し、求められる役割の意識を高めていく
 - ・ 仲間ミーティング：47回
 - ・ 個別支援計画作成やモニタリングを機に個人の役割を確認してきた事で、目標が明確化され、年間を通して安定した活動実績に繋げることができた
- ② 毎月仕事の進捗を日常的コミュニケーションやチームミーティングで報告と分析を実施する
 - ・ 仲間・スタッフとの定例請求書チェック：13回
 - ・ 各自活動報告のほか、事務作業での不具合、不明点はその都度解決することができた。活動において必要な事務書類、新たな確認項目、新商品や販売方法の具体的手法などについても積極的な意見交換を重ねることができた
- ③ トライ＆エラー＆フォローを繰り返す
 - ・ 仲間一人ひとりの役割達成および遂行の際に抱く多様な「不安ごと」に対しては、解決策を見出すことによりおおむね達成はできたが、請求事務や顧客とのやり取りでヒューマンエラーが起因している課題もあるため、活動の質を上げ、ミスを減らすよう改善を繰り返していく
- ④ 半期に一度、仲間の役割に対するモニタリングと評価をおこない、自分の成長を可視化する
 - ・ 半期モニタリング(17名)、次年度に向けた個別支援会議(16名)により個人の活動に対する評価を実施

(円)

	目標金額	今年度実績	達成率	昨年度実績
工賃支払総額	6,310,000	6,303,329	99.9%	5,759,166

2. 日中の生活を豊かに過ごせる居場所づくり

- ① 「傾聴」と「揺さぶり」を大切にしたコミュニケーション
 - ・ 多数在籍するメンタルに不安を抱える仲間の気持ちを安定させるため、傾聴を基本姿勢として対応
 - ・ 生活環境や身体状況の変化から新しいライフステージに向かう仲間への支援として、自立生活体験室の利用斡旋や福祉用具の提案、相談支援やヘルパーなど他のサービス利用に向けた相談を実施
 - ・ 個別面談(相談)：135件 メンタルフォローへの定期面談：234件
- ② 日本の四季を感じられるイベントを年間4回は企画し、余暇活動を享受してもらう
 - ・ 年間を通して主に8つの企画を実施<鶴舞公園花見、大須観音散策、スイカ割り、かき氷企画、東山動植物紅葉狩り、法人納会、鍋パーティー、熱田神宮初詣>

ピア名古屋

- ③ 法人内での研修・訓練に加え、専門的知識向上のための外部研修を一人1つ以上受講する
＜全体研修＞

感染症対策（研修2回、訓練2回）／虐待防止研修、身体拘束研修 各1回／BCP【事業継続計画】研修訓練 各1回、メーカー訪問によるデモ会 5回／福祉用具展示会 3回／定款勉強会／法人職員研修

＜個別研修＞

社会福祉法人財務会計研修／テーマ「精神障害について」外部研修／喀痰吸引等研修(第3号研修) 身体拘束関連の研修（2種類に1人ずつ参加）／カスタマーハラスメント研修／施設長セミナー

- ④ ピア単独では解決できない仲間やお客様の課題には、主導的呼びかけにより支援の「仲間」を増やす

- ・新たな生活づくりのため、担当者会議開催や相談支援員、福祉用具、サマリアハウス体験室など社会資源との『懸け橋役』を担った
- ・新規利用者の契約を含め、外部相談支援事業所（7か所）との繋がりを強め、年間通じてコンスタントに仲間の活動状況や必要な支援といった情報交換を実施
- ・メンタルに不安を抱える仲間を中心に、相談支援事業所のモニタリング、認定調査、新規ヘルパーとの顔合わせに同席

3. 年間を通じて健全な事業運営をする

- ① 強み（機動力・迅速力・対応力）を発揮するため、外出と内勤のスタッフを安定的に配置する

- ・年間を通してスタッフ平均配置率【内勤：3.3名、外勤：2.6名】を達成
- ・来所による福祉用具相談、車いす調整、修理等の対応：169件 ※7月からの実績をカウント
- ・外出による緊急時対応：8件

- ② 事務所および備品に対して、エリア担当者を決めて整理整頓を毎月チェックする

- ・解体作業場の片づけ、不燃ごみの定期的な廃棄、導線確保のためのダンボール処分、展示スペースの整理、
- ・在庫品置き場の工夫：半期に1度は仲間スタッフ全員で整理整頓への更なる意識づけのためミーティング内で呼びかけ

- ③ 1日の利用者平均実人数『7.5名』の維持

- ④ 年間を通し収支差額の絶対的黒字化を実現する

※次頁参照

- ⑤ 車いすセンター事業の無料車いすの貸出(2台)をピア名古屋でも対応できるようにする

- ・貸し出しは年間1台のみにとどまったものの、無料車いすのメンテナンス10台や解体の車いす多数依頼有

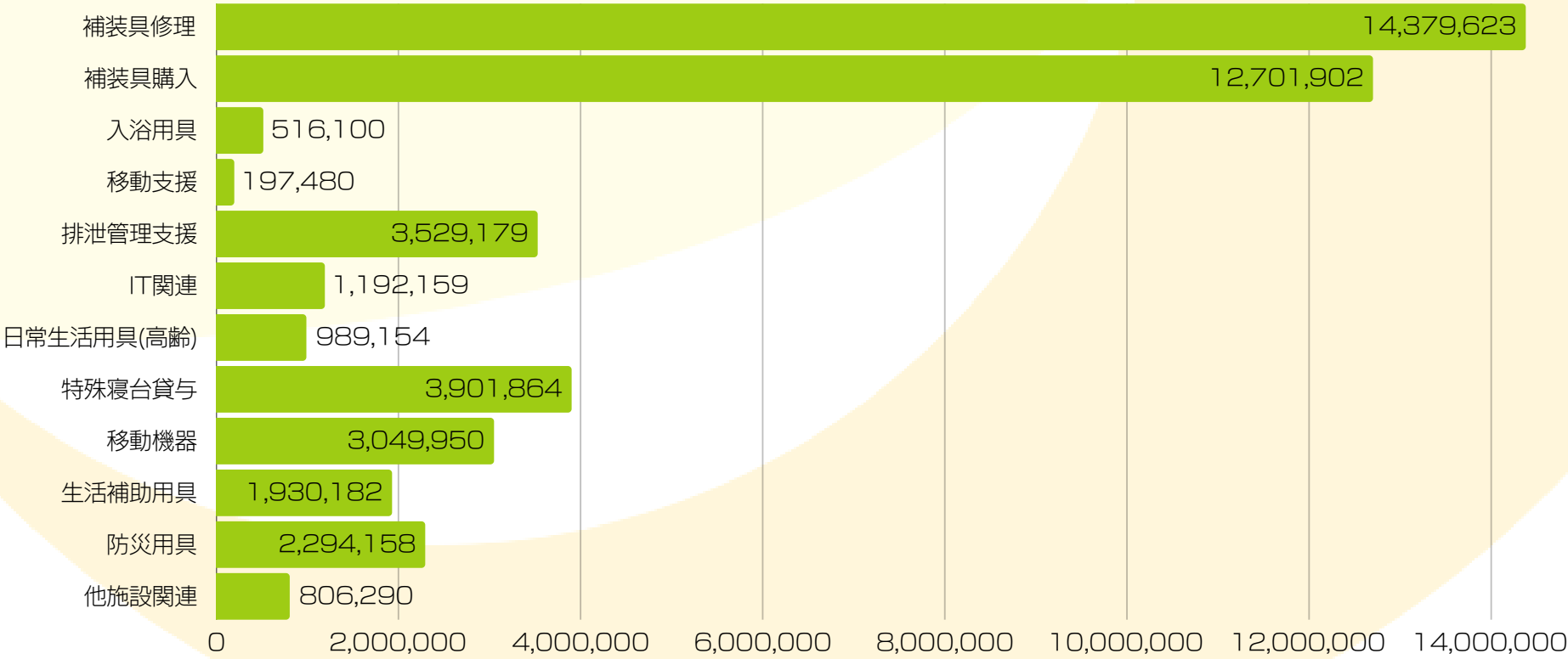
	開所日数	在籍者数	来所のべ日数	平均実人数
今年度実績	290日	17名	2,251人	7.7名
昨年度実績	292日	17名	2,197人	7.5名

※在籍者数はその年の年度末当時のもの

ピア名古屋

※年度目標は補正予算後の額

	年度目標額【円】	今年度実績【円】	達成率【%】	昨年度実績【円】
障害福祉サービス等収入見込	39,417,376	39,300,218	99.70%	37,025,311
生産活動(福祉用具販売等)収入	45,285,335	45,497,841	100.50%	50,001,403
事業活動支出	77,182,486	77,647,341	100.60%	82,115,207



ピア名古屋

<特記事項>

- ピア名古屋創設時からのメンバーであった仲間(男性)が、医療的ケアが必要となり、喀痰吸引登録事業所として受入体制を整備。同年9月に永眠されるまで、ご本人の「ピア名古屋に通いたい」の想いに応えるべく支援を続けた
- 10月より週2回利用で新しい仲間(男性)が加わった。これまでの手動車いすを中心とした生活から、配達や営業をすることで、一人で電動車いすを使って外出する機会が各段に増えた
- 市外から通う男性(30代)が新たな生活づくりのため、サマリアハウス自立生活体験室を2度利用。主に介助面と医療面、金銭管理に対する意識づけの機会となった

【地域貢献】

- 地域の子ども会の催し物時に、相馬ハウス1階のスペース及び備品の貸し出しや、事務所の一部を子ども会備品の保管場所として年間通じて提供
- 川名公園で11月に行われた防災減災秋祭りに参加し、車いす体験ブースを担当

【車いすメンテナンスの主な実績】

社会福祉協議会(昭和区、千種区、名東区、豊田市(ふじのさと))、名古屋大学アビリティ支援センター、愛知県立図書館、徳重図書館

小牧ワイナリー（ななつぼし葡萄酒工房・ピア小牧）

年度目標に 対する結果

1. 健全な葡萄栽培に取り組み、生産の安定や品質の向上を目指す（収量目標：小牧7.5t、多治見2.5t）

- ・ 今季の収穫量は年度比の約1.4倍となり、約12.5 tでした。（収量実績：小牧9.5t、多治見3.0t）
- ・ 天候に注意を払うと共に、生育状態を確認しながら、晴れ間に農薬散布、除草作業、副梢管理、等々を柔軟に施し、多くの作業時間を費やしました。
- ・ 収穫期を遅らせられる樹木は遅らせました。加えて、収穫後の腐敗果や未熟果の選果作業の内容を共有しながら実施しました。今季は収穫期に降雨が続く事もあり、成熟具合（水分ストレス、日照不足、等）に若干の不安が残りました。
- ・ 農業ボランティアの募集も継続した結果、25名（外部支援者）が集まりました。

2. 美味しいワイン造りに取り組み、生産の安定や品質の向上を目指す（生産本数目標：15,000本）

- ・ ワイン関連の外部研修（長野県東御市）に職員1名が参加。（年間30日間、土日15週）。その他、ワイン生産している生産者が共同で主催したワイン研修会に職員2名が参加。（東京都内、全国32社の出展、58品の出品）。及び、外部研修の一貫として、各社の試飲会にも参加。葡萄品種の知識や傾向、品種特性（色調、香り、味わい、等）の官能を学びました。
- ・ 今年度も健全な葡萄栽培、収穫後の腐敗果や未熟果の選果作業、健全な発酵を促す、といった取り組みを継続。暑い地域の葡萄栽培の留意点、生育の傾向を分析値（糖度、酸度、等）から新たな醸造方法（色調、香り、味わい、圧搾方法、発酵過程、等）を試みました。
- ・ 糖度、酸度、以外の分析が出来る分析機器の購入を進めた為、測定値の傾向と数値目標、及び、官能から醸造方法の再試行、品質の安定性を目指す取り組みを実施。
- ・ 仕込んだワインの漉引き作業や濾過工程を行い、微生物管理や品質の安定性（綺麗なワイン）を目指しました。

3. 特長あるワインの商品開発に取り組む

- ・ 今年度は新商品として、小牧産葡萄使用である「KOMAKI／赤・ロゼ・白」、それ以外の葡萄使用である「Vita＝生命、人生／白）」の新作のラベル製作やボトルの種類を増加して新装を図りました。
- ・ 日本ワインコンクールにヤマ・ソービニオン（赤）、ローズシオター（白）の2種類を出品。結果は、ランクインが出来ませんでしたが、外部からの評価を前向きに捉えていく機会となりました。
- ・ 新たに陰干しワインの生産にも取り組みました。加えて、小牧産ジュースの委託製造を進め、お酒をあまり飲まない方へも商品購入に繋がる特長ある商品を目指し、外部委託生産で瓶（500ml、180ml）の葡萄ジュースを初めて開発しました。
- ・ 小牧市ふるさと納税サイトの掲載、地元企業や自治体、近隣大学、等々のイベントにも積極的に参加して、地域の皆様に小牧のワインを楽しんで頂きました。

小牧ワイナリー（ななつぼし葡萄酒工房・ピア小牧）

4. 沢山のお客様に来て頂けるカフェを目指す

- ・ 季節限定のカフェメニュー（特に、季節のピザ）を積極的に進めました。また、カフェ用の野菜畑で収穫が出来た野菜を活かしたメニュー開発、季節感を大切にしました今年度でした。
- ・ カフェ客数「1,218名」、売上「1,727,795円」。土曜日曜は目標を達成が出来た事があっても、平日に達成が出来なかった。来客数増加に向けたメニュー開発や企画が次年度の課題となっている。
- ・ 次年度に向けての人員体制や運営方法、等についての課題や改善策の振り返りを進めた中で、売上に対しての人件費比率が大幅に赤字の為、今年度末からの営業日のスタッフの体制を3名→2名に削減する事を決定して進めました。

5. SNSの掲載内容を充実させる

- ・ SNS「115回」更新／年間。
- ・ 正直、「各担当」という点が曖昧になっていた。畑や醸造は作業中に写真を撮って掲載する、という点の余裕がない一面があった。また、同じような掲載内容な感じでも日々、掲載する事が大切である、という意識変革に取り組みました。次年度は画像と一言だけの掲載でも良いのではないか、という感覚も大切にしながら、今後、取り組んでいく事を確認しました。

6. 仲間と共に働き、作業の充実を図る

- ・ 今年度は、所員3名が退所（女性1名：小牧市在住。男性2名：小牧市在住、春日井市在住）した為、現員、B型「28名」、生活介護「5名」にて稼働となりました。
- ・ 暑くなる季節が早まり、長引く傾向が高まって来た為、畑作業組の体調管理や目配り、朝の体調チェック、食事接種管理を大切にしました。
- ・ 余暇活動（レクリエーション）は名古屋市内で食事会（焼肉会）、大須商店街の散策 or 岐阜清流里山公園の散策、滋賀県へ1泊2日の体験旅行、を中心に実施しました。当日は仲間が主体的に動きながら、各所を巡り、宿泊体験、等を支援しました。
- ・ 所員（女性：3名、男性：2名）が、サマリアハウスの体験室を利用。掃除、洗濯、買い物、お出かけ、外食、等の体験を通して、家族から離れて暮らす練習を行いました。

AJUR리카バリーセンター・フェロー

一年の総括

2024年度は各スタッフの役割と責任の可視化、必要書類の整備、積極的な広報活動、運営課題の洗い出しをし、その解決に向けた対策と運営適正化に向け、スタッフが丸となって取り組んだ1年でした。

スタッフの意思統一のためミーティング2回/月を固定化し、スタッフ相互の理解と情報共有を深めました。その効果は下半期より徐々に現れフェロー内も活気が感じられる様に変化しました。結果は利用数の増に現れていると考えており、次年度も継続的に取り組んでいき、収益等の改善に努めます。

年度目標に 対する結果

- 1.名古屋マックが大切にしてきた伝統的なプログラムを再構築し、食事・清掃・畑当番をマックプログラムの伝統に戻しました。それは、AAへ参加しやすくし、自らの意思で回復の道を歩いていけることが回復に繋がるからです。また、個々への関りは職員担当制として関わりをするようにしました。
- 2.マルシェでの売り上げ目標は11月に達成しました。利用者数の確保が当面の課題なので、年度の後半にマルシェは当面の間参加しないと決めました。その間にB型においての工賃などを決め広報できる体制を整え、広報活動を始めました。
- 3.名古屋市精神保健福祉センターこころぼとの関係性を改めて構築し、行事に協力するなどし、講師としても参加するようになりました。その結果、名古屋市アルコール協議会の構成員として選ばれました。
- 4.・一ツ山クリニック開業に伴う関係性構築。
- 5.・愛知県精神医療センターへの病院メッセージを始めました。
- 6.社協、基幹相談支援センター勉強会実施。
- 7.身体知的障害者の利用獲得のために学校や関係機関へ広報
- 8.工賃の見直し
- 9.フェローのり面の除草作業。
- 10.TYMでは新たにモルタルアートの制作を始めた。
- 11.全体の会議は月に二回実施。
- 12.名古屋市の運営指導と一般監査がありました。運営指導では送迎加算の誤りが指摘され返戻することとなりました。

マイプラン・ケアマネジメントセンター

年度目標に 対する結果

1. 状態変化があっても、可能な限り、在宅生活が継続できるプランを提供できるよう、自己研鑽をする
 - ・ 毎月外部研修を受講し、ミーティング時に報告を継続した。同じような内容でも研修や受講した人で記憶に残る内容が異なったため、新しい視点を持つことができた。
 - ・ アセスメント時だけでなく、本人や家族の状態が変わった時、研修などで情報を得た時などにも情報提供を行い、生活様式について考えるきっかけ作りを行った。

2. 緊急時にも必要な支援が提供できるために 平時から緊急時を想定し内外との情報共有を実行する
 - ・ 月2回のミーティングを継続し、マイプラン内での情報共有を行った。困りごとや急を要す案件に関しては、随時情報共有や相談を行い、まめに経過記録を残すことで担当者が不在でも対応ができる環境が整いつつある。医療連携ネットワークを使用した災害時の多職種連携チャットの運用についても、外部の事業所と意見交換を続け、災害時に活用できる体制づくりに参加している。
 - ・ 図上訓練を行ったが、災害時にどこまで活用できるのか疑問が残る結果となった。BCPとの連動や地域との連携も合わせていきたいと考えている。

3. 事業の継続を担保するために赤字縮減を実行する
 - ・ 70件の新規相談があり、20名を受けた。認定が出なかった、要支援だが要介護になったら、相談だけ等制度利用に結びつかなかった方が8名。7名は高齢者いきいき相談室で対応し、内3名は新規利用者となった。
 - ・ 「ケアマネは忙しいので担当出ないのに相談は申し訳ない」と言われることがあったが、高齢者いきいき相談室を使うことで「マイプランへ収入があるなら相談がしやすい」と言われることが増えた。自事業所で契約をしていない場合は、相談を受け付けられるようになり、サービスを利用されている方からの相談もあった。電話来所相談51件。訪問相談35件。地域行事参加2件。請求回数上限を超えた相談2件。
 - ・ 年間を通して、人員配置と夜間対応以外の加算取得のための体制を継続したが、人員配置の要件を満たせず加算取得はかなわなかった。

社会啓発・社会貢献事業室

年度目標に 対する結果

1. 障害者のエンパワメントを促すために様々なイベントを企画・実施

- ①「ZOOMでしゃべり場」の企画 隔月開催。ホーム入居を目指す施設入所者も参加いただく。
 - 偶数月に開催。参加されていた施設入所者との定期的な関りの一端を担うことができ、福祉ホーム入居へとつながりました。
- ②「たまり場」の企画 隔月開催。福祉ホーム・デイメンバーが参加しやすい会場にて実施。
 - 奇数月に開催。会場は障害当事者だけの空間確保のため、2階世帯部屋に変更。参加者5.6名にて実施。次年度より、ZOOMの利用を中止し、毎月「たまり場」を開催することに。
- ③その他の当事者交流会 夏季・年末などに企画。
 - 企画に参加していない福祉ホーム入居者を交え、新年会を開催。参加者20名ほど。次年度も楽しめる企画を通して、関りを増やし参加者増へすすめることに。
- ④中部地方のピアカン、ILP講座の案内 県内の団体が開催する講座の掲示と声掛けにて案内。
 - 案内のみにとどまり、講座参加がなかった。次年度は、名古屋での開催を企画する。

2. 車いす貸出事業を通し制度の狭間にある人の社会参加を促すため、在庫の維持に取り組めます。

- ①車いすの貸出し可能な在庫確保 毎月修理日を設ける
 - 新規貸出520件。個人への新規貸出が昨年比76件増の400件。年齢別では、昨年同様の比率で0～9歳への貸出しが20%と割合が高い。毎月の修理日を設けたが、日々の需要と合わず、在庫の状況に合わせ実施することになった。
- ②問合せ時にお応えできるよう、毎朝の在庫状況を事務所内に表示します。
 - 在庫状況を、ホームページにて3段階にて表示した。
- ③福祉制度等に関する情報を収集し掲示します。
 - アジア・アジア競技大会へ向けた、地下鉄のホームドア及びトイレ工事が行われ、EVを含めた工事期間等を、よくする会より随時発信を行った。

3. 人権意識を広めるために各団体の活動を通して啓発を続けます。

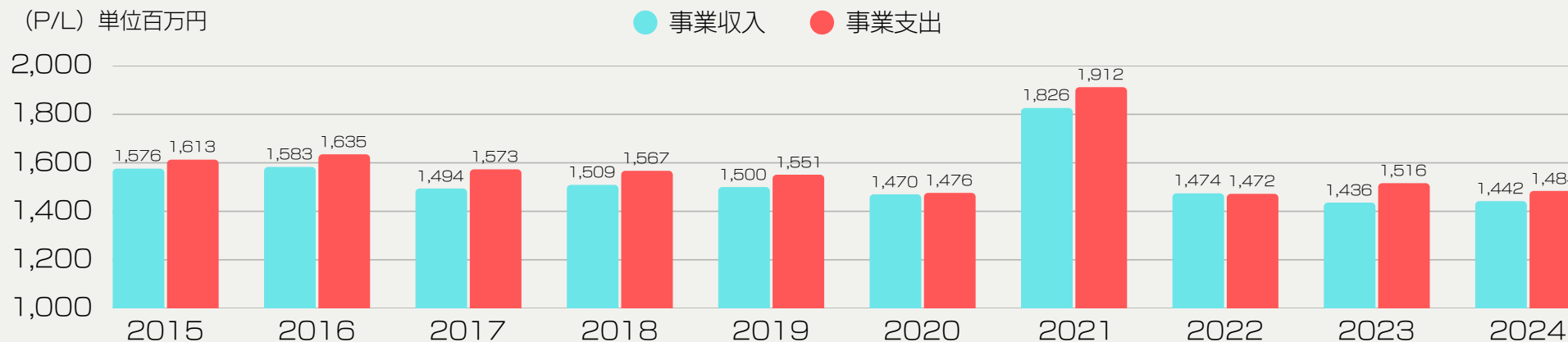
- ①団体事務局を担う 障害者団体の社会啓発活動のため、愛知障害フォーラム（ADF）、愛知県重度障害者団体連絡協議会、愛知県重度障害者の生活をよくする会の事務局を担う。
 - 団体事務局を担い、建て替えが始まった瑞穂陸上競技場やIGアリーナに対し、行政、地域団体、市議、業者との話し合いに参加し、当初の図面になかった当事者の声を反映させることができた。
- ②他団体と交流の機会を持つ 学習・交流のため、DPⅠ日本会議、全国自立生活センター協議会、昭和区の福祉まつり実行委員会、チームアジアンドリームなどの活動に参加します。
 - ②DPⅠ日本会議及び全国自立生活センター協議会の全国大会に参加し、学習と多くの仲間との交流を持つことができた。
 - ②昭和区の福祉まつり実行委員会に参加し、区内20団体と共に、区役所にてイベントを企画開催し、地域の方々約500名に参加いただいた。
 - ②チームアジアンドリームの募金活動等にて、カンボジアの障害児2名に簡易電動車いす2台を送ることができた。

2024年度（令和6年度）決算概要

2024年度決算・法人全体

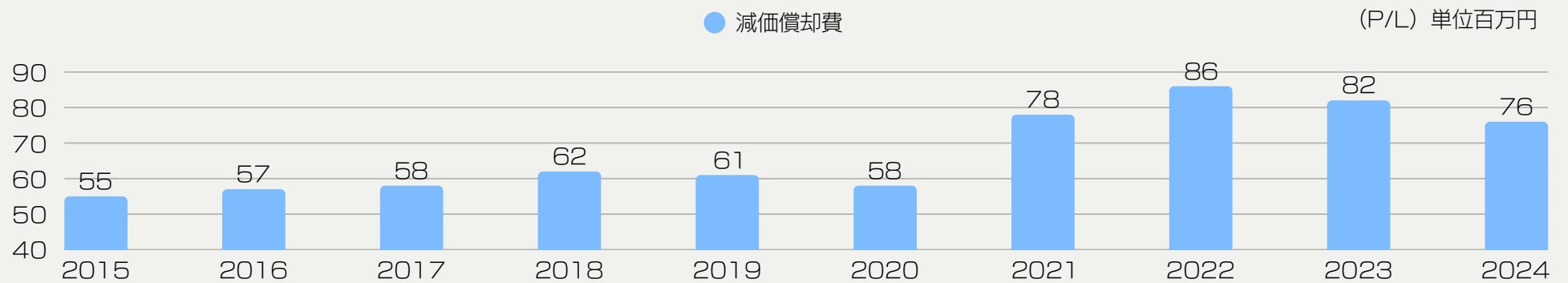
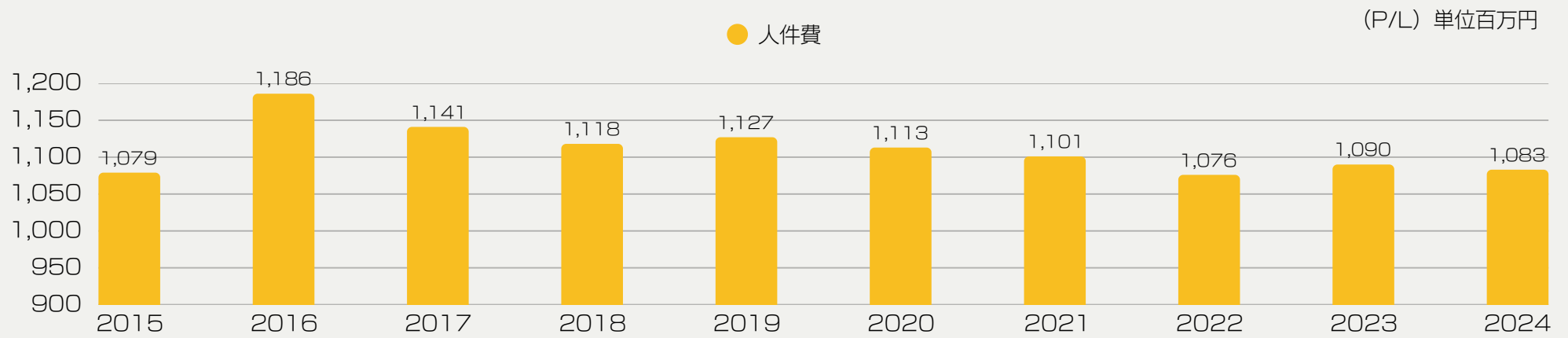
(C/F) 単位百万円 内部取引消去後	2023年度（実績）	2024年度（当初予算）	2024年度（実績）
事業活動収入	1,428 百万円	1,449 百万円	1,454 百万円
事業活動支出	1,468 百万円	1,486 百万円	1,495 百万円
収支差額	-40 百万円	-37 百万円	-41 百万円
収益率	-2.8 %	-2.5 %	-2.8 %

- 2024年度（令和6年度）法人全体の決算事業活動収入は、当初予算より5百万円増え1,454百万円でした。
- 2023年度（令和5年度）決算実績より、収入は26百万円の増収でした。一方で支出も27百万円増加し、最終的な収支差額は、-41百万円でした。
- 下記グラフは2015年度～2023年度までの事業活動計算書（損益計算書）での平均的な収支差額は、毎年マイナス5,000万です。



2024年度決算・法人全体

- 2015年度～2024年度までの事業活動計算書（損益計算書）で支出の大部分を占める人件費の推移については、マイライフ等の派遣時間数の減少、活動する登録ヘルパー等時間減少に合わせて総人件費は横ばいから減少傾向が続いています。
- 2015年度～2024年度までの減価償却費は、大きな建物の建設があり増えたものの、耐用年数の短い設備等の償却が減っていくため、少しずつ減少しています。



2024年度決算・各事業ごとの収支

- 各事業毎では、わだちコンピュータハウスが前年比16.3%の収入増を果たしました、また、小牧ワイナリーは8.3%収入増で3期連続で少しずつですが収益改善を継続しており、AJUリカバリーセンター・フェローも収入8.1%増となり、昨年4月からの利用者獲得を継続してきたことで、事業としては赤字ですが赤字幅を縮小しています。
- マイライフは派遣時間数の減少に合わせて2.5%の減収です。マイライフ西は支出が大幅に増加しましたが、事務所の移転に伴う経費であり、一時的なものです。
- 事業の運営課題は収益率の低さです。物価上昇の影響も軽視できませんが、法人全体での見直し可能な事務機器や損害保険等は契約見直しを図り大幅にコスト削減をしてきました。しかし、各部署は不十分なところもあるため、そこに対して対策を強化していきます。
- 昨今の物価高に対応して、厳しい経営の中でも給与等に関しては国の処遇改善加算を活用して改善を図っていきます。2025年度から月ごとに加算対象部署の得る月々の加算額の1/2を翌月に支給することが義務化されるため、それに合うよう支給していきます。

2024年度(令和6年度)決算補足資料(資金収支・内部取引消去前)

		社会福祉事業												公益事業					合計
(単位:千円)		本部	福祉ホーム	サマリアデイ	マイライフ	マイライフ西	講師派遣	基幹	相談サマリア	わだち	ピア名古屋	小牧	フェロー	養成事業	シバ-住宅	体験室	リフトカー	マイブラン	
2023年度	事業活動収入	16,841	27,923	73,198	514,054	219,273	11,716	51,392	21,436	164,818	87,044	100,678	61,233	2,747	2,750	11,046	56,087	11,545	1,433,781
	施設整備等収入	0	10	1,125	0	36	0	0	0	15	0	0	1,347	0	0	0	0	0	2,533
	その他収入	61,000	6,000	0	455	306	837	12,000	0	3,960	0	16,000	26,190	0	180	5,000	0	5,500	137,428
	収入合計	77,841	33,933	74,323	514,509	219,615	12,553	63,392	21,436	168,793	87,044	116,678	88,770	2,747	2,930	16,046	56,087	17,045	1,573,742
	事業活動支出	50,643	28,278	63,187	476,280	182,531	12,952	64,235	20,680	158,726	82,689	118,211	91,733	584	2,889	14,835	56,087	16,243	1,440,783
	施設整備等支出	716	0	2,071	0	689	0	0	0	0	0	790	6,615	0	0	642	0	0	11,523
	その他支出	69,903	167	3,539	43,120	35,823	111	358	199	3,679	967	558	679	2,000	0	111	0	111	161,325
	支出合計	121,262	28,445	68,797	519,400	219,043	13,063	64,593	20,879	162,405	83,656	119,559	99,027	2,584	2,889	15,588	56,087	16,354	1,613,631
	予備費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
前年同月累計収支差額		-43,421	5,488	5,526	-4,891	572	-510	-1,201	557	6,388	3,388	-2,881	-10,257	163	41	458	0	691	-39,889
2024年度	事業活動収入	17,093	26,356	66,258	501,301	221,213	11,169	47,561	19,957	191,708	84,819	109,067	66,220	2,255	2,268	11,011	58,651	11,939	1,448,846
	施設整備等収入	653	0	0	0	75	0	0	0	0	0	0	1,702	0	0	0	0	0	2,430
	その他収入	23,434	7,000	846	102	10,409	0	8,944	0	2,110	0	11,135	40,485	0	0	2,000	0	4,000	110,465
	収入合計	41,180	33,356	67,104	501,403	231,697	11,169	56,505	19,957	193,818	84,819	120,202	108,407	2,255	2,268	13,011	58,651	15,939	1,561,741
	事業活動支出	67,009	29,947	63,506	479,330	208,278	11,117	47,109	18,467	150,990	75,872	115,509	91,604	468	2,267	10,995	58,651	15,696	1,446,815
	施設整備等支出	1,274	0	0	165	16,066	0	0	0	0	0	1,602	6,849	0	0	0	0	0	25,956
	その他支出	71,367	223	562	25,934	2,742	112	3,335	112	23,270	1,268	493	665	0	0	112	0	112	130,307
	支出合計	139,650	30,170	64,068	505,429	227,086	11,229	50,444	18,579	174,260	77,140	117,604	99,118	468	2,267	11,107	58,651	15,808	1,603,078
	予備費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24年度累計収支差額		-98,470	3,186	3,036	-4,026	4,611	-60	6,061	1,378	19,558	7,679	2,598	9,289	1,787	1	1,904	0	131	-41,337
前年同月との差額		-55,049	-2,302	-2,490	865	4,039	450	7,262	821	13,170	4,291	5,479	19,546	1,624	-40	1,446	0	-560	-1,448
事業活動収入増減率		1.5	-5.6	-9.5	-2.5	0.9	-4.7	-7.5	-6.9	16.3	-2.6	8.3	8.1	-17.9	-17.5	-0.3	4.6	3.4	1.1
事業活動支出増減率		32.3	5.9	0.5	0.6	14.1	-14.2	-26.7	-10.7	-4.9	-8.2	-2.3	-0.1	-19.9	-21.5	-25.9	4.6	-3.4	0.4
2024収益比率		-74.5	-12.0	4.3	4.6	6.2	0.5	1.0	8.1	27.0	11.8	-5.6	-27.7	381.8	0.0	0.1	0.0	-23.9	0.1